



豊里

個性を生かして自由に生ける

「令和2年度いけばな教室」(豊里公民館主催)は7月16日、平筒沼農村文化自然学習館で開かれ、20人が参加しました。

参加者は、講師の高橋由紀子氏にアドバイスをもらいながら自分の思い通りに工夫して生ける「自由花」に挑戦。同じ花を使っても人によって全く違う仕上がりになる生け花の奥深さを体感しながら、自由な発想で楽しみました。いけばな教室は来年2月までに計4回開催予定です。

予防啓発重ねて無火災を継続

「住宅無火災500日達成表彰」は6月23日、米山総合支所で開かれ、登米市婦人防火クラブの佐藤千賀子会長から米山支部婦人防火クラブの畠山ひろみ支部長へ表彰状が手渡されました。

平成31年1月19日から続く米山町域の住宅無火災が6月2日に500日を達成。米山支部では、火災予防啓発チラシを配布したり、炊き出し訓練や救急救命講習会を開催したりするなど精力的に防火・防災活動に取り組んでいます。



米山

全身を動かしてリズムを表現

石越放課後子ども教室「リトミック教室」は7月8日、音楽教室「みゅうじっくさろん」の小野寺範子氏を講師に石越公民館で開かれ、児童13人が参加しました。

児童らは、全身で音楽を学べるトーンチャイムを使い、みんなで童謡の「たなばたさま」を演奏したり、音楽に合わせて体を大きく動かしながら自己紹介をし合ったりしながら元気いっぱい音楽を楽しみ、充実した放課後の時間を過ごしました。



石越

明るい笑顔で元気にあいさつ

青少年のための登米市民会議南方支部による「あいさつ運動」は7月15日、南方町域内の小中学校で実施され、南方支部役員や児童など50人が参加しました。

あいさつ運動は、青少年が心豊かにたくましく成長することを目的に実施。参加した児童らは、新型コロナウイルス感染症予防としてマスクを着用しながら、「おはようございます」とウイルスを吹き飛ばすような大きな声であいさつし、地域住民に元気を届けました。



南方

イナリリュウ想像模型を展示

「夢フェスタ水の里」で公演を予定していた「正義受け継ぐ者たちへ～津山イナリリュウの伝言～」のPR用に製作した全長約2.5mのイナリリュウ想像模型の展示が、7月1日から道の駅津山「もくもくランド」で始まりまし

た。想像模型は、津山町の彫刻家である亀井陽逸氏を中心に地元住民が協力し作成。オープニングセレモニーに集まった各関係者は、今にもかみつきそうな迫力満点のイナリリュウに見入っていました。



津山

9 TOWNS TOPICS

9つのまちのホットな話題をお届けします



迫

住民の健康と安全を願う七夕

相次いで行事が中止となっている中、地域を盛り上げようと、住民の健康と安全を願った七夕飾りが7月3から10日まで新田公民館に設置されました。

七夕飾りは、来館者が「疫病退散」「部活動で新記録を出せますように」などの願い事を込めた短冊110枚や吹き流しなどを地域住民が飾り付け。七夕飾りを見た住民からは「昔は願いを込めて家や学校で飾っていたから懐かしい」などの声がありました。

伝統受け継ぐとよま囃子踊り

地域に根付いた伝統芸能の大切さを学ぶ「とよま囃子踊り指導」が7月21日、登米中学校(小林信之校長、生徒112人)で実施され、全学年の生徒が参加しました。

とよま囃子踊り指導では、笛や太鼓で演奏する「とよま囃子」と、囃子にあわせて踊る「とよま踊り」の2つのグループに別れて活動。生徒たちは、学校支援ボランティアに約50分間の指導を受けながら、地域に伝わる伝統芸能を学ぼうと真剣なまなざしで取り組んでいました。



登米



東和

地元の起業者から仕事を学ぶ

「起業学習教育」は7月7日、東和中学校(千葉純子校長、生徒110人)で開かれ、中学2年生35人が参加し、仕事をすることや会社を立ち上げるということはどのようなものかを考えました。

起業学習教育は、東和町内で起業した不動産屋まちおもいの大山敏幸代表と自家焙煎珈琲店coffeeippoの嶋村一歩氏を講師に授業。参加した生徒たちは、人に喜んでもらえるような仕事したいなど意欲あふれる感想を話しました。

夏の新鮮な果実を摘み取ろう

「第1回チャレンジスクール」(宝江コミュニティ運営協議会主催、田島幹雄会長)は7月18日、伊豆沼農産で開かれ、宝江小4～6年生の児童29人が参加しました。

全4回を予定しているチャレンジスクールの初回は、ブルーベリーの摘み取りを体験。子どもたちは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため3密に注意しながら収穫。鮮やかなブルーベリーを口いっぱい頬張り、旬の味に舌鼓を打つなど、果物の摘み取り体験を楽しみました。



中田